

トランジション戦略

2024 年 1 月

エコワークス株式会社は、社名の「環境活動」が示す通り、設立以来、国が目指す住まいづくりに合わせた「省エネ住宅の普及・促進」に取り組む地域工務店です。

当社は 2020 年に、2030 年カーボンニュートラルを見据えた 2025 年の中間目標として、「Scope1 および Scope2 の GHG 排出量を 2025 年に 2018 年度比 50%削減」を設定しました。この中間目標は SME ルートの SBTi の認定を受けています。この度、目標に向けた道筋を定めた「トランジション戦略」を策定しました。これにより確実な実行を進めていきます。

1) 基本的な考え方

- ・ 本トランジション戦略は 2030 年中間目標達成及びその先のカーボンニュートラルの実現に向けた戦略と具体的な取り組みの計画を定めるものです。持続可能な企業成長とそれを通じた社会全体の脱炭素化への貢献との両立を前提としています。
- ・ 将来予測においてはシナリオ分析の手法を用い、その結果に基づき検討しています。
- ・ 取り組みの検討にあたっては、気候変動以外の環境・社会的課題への影響を考慮しています。
- ・ 戦略・取り組みは中期経営計画へ反映し経営と統合することにより、確実な実行を進めます。
- ・ 本計画は最新動向、ベストプラクティスを踏まえ常に見直しと改善を行っていきます。

2) 戦略

(1) 当社の排出量の傾向

当社の 2022 年度の排出量の構成は Scope1 が 0.1%、Scope2 が 0%、Scope3 が 99.9%を占めています。Scope3 の内訳はカテゴリ 1（購入した製品・サービス）が 60%を占めており、残りはカテゴリ 4（輸送・配送）が 38%、カテゴリ 5（廃棄物）が 1%の順になっています。

※Scope3 については、2021 年度集計データをもとに記載。

(2) 当社の削減目標の内容

以下の中間目標について SBTi の認定を受けていますが、それを上回る野心的な目標として 2030 年排出量ゼロを目標として設定しています。

- ・ Scope1 および Scope2 の温室効果ガス排出量を 2030 年に 2018 年度比で 50%削減
- ・ Scope3 排出量の把握と削減に取り組むことを約束

(3) Scope1,2 削減の戦略と取り組み

弊社は創業以来、継続的に事業拡大を続けており、人員増強により拠点での電力使用量と社用車での移動が増え続けており、今後も増加が予想されます。しかし、Scope2 の電力については、2021 年度より再エネ 100%化を達成し、排出量の増加には至っておりません。今後もこれを維持していきます。残る Scope2 については、2030 年までに順次、社用車の EV 化を進め、排出量ゼロを目指していきます。

■具体的取り組み① 2021 年度以降電力再エネ 100%化を維持

(4) Scope3 削減の戦略と取り組み

当社では 2023 年から Scope3 排出量の把握を開始しました。事業拡大に伴い、Scope3 排出量も拡大傾向にあります。2021 年度実績では Scope3 排出量のうち 60%をカテゴリ 1（購入した製品・サービス）が占めており、そのほとんどが木造住宅建築に関連するものです。また算出は一部、限定的なカテゴリでの算出になっており、今後、より正確な情報抽出により、さらに精度のあるデータ算出に努めていきます。

■具体的取り組み② 2023 年より、Scope3 の算出に着手

(5) 低炭素製品・サービスに関する戦略と取り組み

①ZEH、LCCM 住宅の販売

新築注文住宅のうち、ZEH 達成率は 92%（直近 7 年間の平均割合）。さらには、LCCM 住宅についても、2022 年度実績で 59%を達成しています。弊社の ZEH1 棟当たりの CO2 削減量は約 8.2t-CO2/年。ZEH の建築による 1 年間当たりの CO2 削減量は約 605t-CO2/年となります。

※電気使用量合計平成 28 年度基準 21642.19kWh、弊社 2018 年度実績 4748.328kWh、九州電力調整後排出係数（2019 年度）0.000347t-CO2/kWh、直近 4 年間の販売棟数 331 棟、ZEH 達成率 90%）

②ZEB 設計コンサルティング

当社では、BELS（非住宅・複合建築物）評価取得による福岡県初・熊本県初の『ZEB』※を達成しています。

※『ZEB』は、ZEB Ready、Nearly ZEB、ZEB Oriented 含めず狭義の「一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物」の意味。

③建築材料の調達における木材の天然乾燥への取り組み

弊社は木造住宅を共有する住宅会社であり、住宅の構造材、羽柄材の天然乾燥木材の使用率は、90%を超えています。天然乾燥木材は、太陽と風などの自然の力でゆっくり乾燥させる方法で、一般的に流通している人工乾燥木材に比べ、1棟あたり、約 2.6t-CO₂ を削減することができます。

※2017 年度実績 72 棟の天然乾燥木材使用実績量より平均値を算出。

■具体的取り組み③ 業界トップクラスの ZEH・LCCM 住宅の普及実績

3) エンゲージメント戦略

(1) 国際イニシアティブへの参加

当社は国際 NGO との協働や国際イニシアティブへの参加を通し、企業のグローバル水準での気候変動対応を支援し社会の脱炭素化に貢献しています。

- ・ Race to ZERO circle 2021 年加入
- ・ 再エネ 100 宣言 RE Action 2019 年加入 ※チャーターメンバー
- ・ BUSSINESS FOR 1.5°C CAMPAIGN 2021 年

(2) 業界・政府との協業

代表の小山の活動実績として、経済産業省「ZEH ロードマップ検討委員会」委員、国土交通省「住宅のエネルギー性能の表示のあり方に関する研究会」委員歴任等、国や業界団体の委員会、検討会などのメンバーとして、住宅業界全体の省エネ住宅化・脱炭素化を訴えてまいりました。さらに 2023 年 11 月には、岸田総理主催の GX 会議に地域工務店の代表として呼ばれ、首相や有識者、経済団体代表を前に、省エネ改修の重要性のプレゼンを行いました。

4) 指標と目標

(1) GHG 排出量

目標	進捗
Scope1+2 排出量を 2025 年に 2018 年度比 50%削減	Scope1+2 排出量は 2023 年度に 2018 年度比 32%削減
Scope3 排出量の把握と削減に取り組むことを約束	Scope3 排出量は 2023 年度より把握を開始

(2) GHG 排出量の推移 (t-co2)

	2018 年度 (基準年)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2023 年度 増減率
Scope1	151.0	171.3	148.7	148.9	157.6	154.8	-
Scope2	80.8	50.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-
Scope1+2	231.8	221.6	148.7	148.9	157.6	154.8	33%
Scope3	-	-	-	24422	-	-	-

5) ガバナンス

本戦略は、代表取締役を長とする SDGs 未来プロジェクト委員会が管理し、当社の各部署が取り組みを推進しています。SDGs 未来プロジェクト委員会は四半期に一度開催し、トランジション戦略の見直し・改善や進捗管理を実施し、その内容を部門長会議に報告の上、取締役会による監督を受けます。

